

- |       |  |
|-------|--|
| ○日時   | 令和3年3月29日（月）午後6時29分から8時まで  |
| ○場所   | 武蔵野市役所811会議室   |
| ○出席委員 | 市川一宏、岩本 操、渡邊大輔、山井理恵、北島 勉、田原順雄、星野衛一郎、小安邦彦、野田 愛、森新太郎、村雲祐一（敬称略）11名                                      |
| ○傍聴者  | 1名   |
| ○事務局  | 山田健康福祉部長、一ノ関保健医療担当部長、小久保地域支援課長、毛利生活福祉課長、稲葉高齢者支援課長、吉野高齢者支援課相談支援担当課長、勝又障害者福祉課長、高橋地域保健調整担当課長、齋藤保険年金課長 他 |

## 1 開 会

【地域支援課長】 定刻前だが出席委員が揃っており開始したい。本日は、栖雲委員より欠席の連絡をいただいている。会議の進行を市川座長にお願いしたい。

【座長】 これより、会議を開催したい。先週、東京都と練馬の会議が終わり、今日、最後の武蔵野市が終わる。コロナ禍で問題が深刻化している中、どの自治体も手応えのある計画を作っていた。従前よりもニーズを把握し、何が可能かを計画で打ち立てたと思うが、今までの計画が有意義だったのか、有効であったのか、活動は意味があったのかという検証もしていく必要があると思う。

次に、どういう地域をつくるのか。武蔵野なら武蔵野の地域をどうしていくのかということ、今回もしっかりとそれぞれのところで描いている。

最後に、連携、協働、様々な課題が出てくる中、単独ではなく、総合的に連携し、その問題の解決に当たるのかという総力戦が求められている時代だと思っている。

今日の報告を踏まえ、委員の皆様の意見を伺い、全体でどう捉えていくのかとともに、民間や住民の方々とどう連携していくか、その議論ができればと思うので、よろしくお願ひしたい。現在の任期は令和3年3月31日末までで、このメンバーでの最後の会議になる。忌憚のない意見をお願いしたい。

## 2 配付資料確認（略）

## 3 議事

（1） 武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画答申について

（2） 武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画答申について

【座長】 議事に入る。（1）（2）を一括して説明をお願いしたい。前回会議で中間まとめを説明しており、変更点を中心に説明をしてほしい。説明後、委員で参加されている各策定委員長に一言いただきたいと思う。

(説明略)

【山井委員】 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画は、説明のとおり、比較的元気でひとり暮らしの方から、中重度や認知症の方も含めて、それぞれの個別施策を検討した。

今回、非常に意見があったのは総合相談窓口で、特に高齢分野では、他の領域とクロスオーバーした8050問題等の複雑化する問題や、どこに相談に行けばいいかわからないような問題に対応できて、そして繋いでいく、福祉相談窓口のあり方について、名称も含めて、市民意見交換会や委員間で議論が行われた。

また、介護保険は保険料で賄う制度ですので、施設を増やしサービスを充実すると、保険料が上がってしまう。その一方、アンケート等で、住民の方も保険料の負担を感じると答えている方が多かったので、その辺のバランスについても議論が行われた。

【副座長】 障害者計画・第6期障害福祉計画の概要は、事務局から説明があったとおりだ。最後のまとめにおける、パブリックコメント・市民意見交換会等からの対応方針の検討の議論では、委員会として様々なことを考えさせられた。

3年に1回、委員会が設置され、計画を策定しているが、計画の中には3年前と同じような記載もあって、計画を立てたが、思うように進まなかったことがあると思う。今後は、何が原因か、何がハードルなのかについても改めて考えていかなければならないと感じた。

子どものところでは、教育との連携や医療・介護との連携、いろんな所の連携が言われているが、この3年間で、どこをゴールにして具体的に進めていくのかをきちんと考えていかなければならない。

この策定委員会は、武蔵野市の地域自立支援協議会が委員を兼ねている。この協議会は、地域の障害者福祉に関わる地域課題を検討・協議し、改善に向けて取り組んでいくもので、この計画を実行に移していく推進主体としても、私たちは取り組んでいかなければならないと改めて認識している。

【座長】 報告、説明が終わったので、質疑応答、意見交換をしたいと思います。

高齢と障害の計画の両方が揃ったが、その連携については、相談支援体制の強化ということで、福祉相談コーディネーターの配置に向けて、両方をつないでいこうという視点が出されている。これはとても意味のあることと思うが、それ以外に両方が連携していくというので、特に留意した点はあるか。

【障害者福祉課長】 以前、地域共生社会のさらなる推進というところで、桜堤地域のことが少し話題になったと思う。桜堤ケアハウスのほか、桜堤地域のエリアの中に、令和2年4月に介護老人保健施設が設置されて、さらに12月には放課後等デイサービスが、高齢者のデイサービスを転用して障害児の支援を始めたという経緯がある。

それぞれの役割は違うが、比較的狭いエリアの中にいろいろな機能を持った施設がある。高齢や障害のサービス基盤が比較的集中して整備され、対象者が違うので同じことをする

わけではないが、今後、地域共生社会のモデルケースとなるように、事業者間の連携等を進めていくというのが1つあるかと思っている。

【地域支援課長】 両計画策定委員会での検討後、11月のこの会議でお諮りし、庁内推進委員会と健康福祉実務担当者調整委員会で合計6回、集中的に検討した。

社会福祉法改正という背景があったが、武蔵野市では、これまでの健康福祉総合計画及び第六期長期計画で、重層的な相談支援体制の構築を推進してきた。これまでの取り組みをどう強化していくのかを皆で共通認識した。

また、4月以降も、課題が出てくると思うので、それをどのような形で共有化して、それぞれの課、関係機関で当たるのか、そういった会議体というか、検討する組織も必要ではないかという話をしたところだ。

【健康福祉部長】 加えて、市民生活を支えていく上で、高齢介護や障害福祉サービスといったフォーマルな部分だけでは限界性があるということ。武蔵野市ならではの共生社会を考えると、市民共助の取り組みなくしては語れず、レモンキャブ、テンミリオンハウス、いきいきサロン、市民のボランティアな精神によって市民生活は支えられていることを改めて認識し、コロナ禍でそういった取り組みをどうサポートしていくのかが、我々行政に与えられた大きな使命の1つであることを改めて認識したと思う。

【座長】 プロセスも明記されているが、どういう議論をして、どういう結果を生み出したのか、そういうことを今後明らかにしていくことが大事だと思う。こういう取り組みがあって、その議論がどう具体的に反映されたのかを進めてほしい。8050問題にしても、障害をお持ちの50の方と、いわゆる高齢者の方の問題が生活困窮という形で登場すると、その2つプラス生活困窮、いわゆる施策の関わりを明記して進めていくことが重要だと思うので、それを進めていただきたいと思う。

【渡邊委員】 長期にわたる、かつ、コロナ禍での策定、お疲れさまです。2点、コメントしたい。

1点目は福祉総合相談窓口について。前回の会議においても評価したように、本当によい仕組みだと思っている。先ほど座長も言っていたが、今後どう連携をさせていくかが課題と思う。

この取り組みは高齢分野と障害分野もだが、子ども家庭分野などもかなり関わってくる分野だ。健康福祉部内であればやりやすいところもあるが、部局を越えるとやりにくいところもあると思うので、どういう連携を図るか。ただ、そのために新しい会議を立ち上げてやっていくと調整コストもかかってくる。既存の会議体を活用するとか、調整コストについても考えつつ、総合相談窓口や福祉相談コーディネーターの方が実際に実行力を伴う形で運用いただきたいと思う。もしアイデア等があれば、ぜひ伺いたい。

2点目は、今回の計画の中で、サービス事業者の方々がコロナでかなり疲弊し、特にデイサービスなどに関しては、一時期なかなかうまく動かなかったという事業所もあった。

今回のコロナによって疲弊しているサービス事業者に対しての支援等について、これまで議論できたのか、あるいはこの中にどう盛り込まれているのか、もし何かあれば、意見いただければと思う。

【生活福祉課長】 この後、令和3年度事業予定で説明するが、福祉総合相談窓口については、生活福祉課にこの4月1日から設置をする予定だ。生活福祉課への設置理由は、生活福祉課は平成27年以来、生活困窮者自立支援の相談窓口と、生活保護の相談窓口を兼ねて実施してきた。そういう意味では、従来から対象者の、高齢である、障害であるという属性に限定せずに、多様な相談を受けてきている。実際、ひきこもり、8050の方も、そういった中で相談に上がることもある。経済的困窮のイメージが強いのは課題であるが、そういったことから生活福祉課の窓口で受ける予定である。

部を越えてというところは、課題の1つではあるが、従来も、最初に相談を受けた課の職員が話を伺って、必要などころにつないでいる。ひきこもりは障害ではないという抵抗感とか、最初から多様な問題を抱えているときに、まずどこに行っているのかわからないという相談があれば、そういった方に関して、何か悩みがあれば福祉総合相談窓口にご相談くださいと、最初の相談の窓口を明確化するというのが目的の一つである。

また、支援者の側において、今まで相談をつないだ後に、きちんと相談が解決されているのか、主管課任せになっている部分があり、新たな課題が出てきたときに対応し切れていないこともあった。そこを福祉相談コーディネーターが、相談を受ける時も、受けた後も、関係者を集めて定期的に支援の進捗管理、支援方針の確認を行って、切れ目が生じないようにする。恐らく時間がかかる方もいると思うので、そのときに切れ目が生じないような支援をしていくのが、今の狙いである。

【高齢者支援課長】 先ほど、新型コロナの影響について質問いただいた。策定委員会の1回目が書面開催だったが、2回目の実質的な委員会の中でもその議論があった。資料・冊子の4ページから、新型コロナ感染症拡大による施策への影響とその対応を記載し、6ページに、事業者支援の市独自支援策を記載した。介護職・看護職R eスタート支援金は、介護人材が不足する状況の中で、即戦力となる方の再就職、また新たに再就職する方にそれぞれ15万円、資格がなければ5万円を支援金として用意した。あと、市が持っている備蓄品については、かなり早くからマスクの提供を行った。

市独自の財政的な支援策としては、感染拡大防止の中小企業等緊急支援金に介護事業者等も含めているということだ。国の方は来年度の報酬改定で、令和3年9月末まで、基本報酬に新型コロナの影響ということで0.1%上乗せをするとされているが、市の方でも感染症の状況の中で、事業者支援をできる限り行っていきたいと考えている。

【保健医療担当部長】 子どものセクションとの連携は、子ども子育て世代の包括支援センターを4月1日から開設し、子育て世代を一括して受けるセクションができる。他に、子育て等を行っていた職員が福祉総合相談窓口へ配属されるなど、それぞれ必要などころ

に繋げることができる体制を連携して作っている。

【座長】 それらがしっかり整理できて、来年度の取り組みで実証するようにぜひお願いしたい。相談の議論については、地域包括ケアとかセンターとか、各相談窓口があって、また新たに全部取り組むことは難しいので、どう連携をしていくのかということは今後の議論としていただきたい。今まであるものの連携をどうするのか。木があって、それに新しいものを接ぎ木していくという発想をぜひ持ってほしい。

### (3) 第3期健康福祉総合計画の進捗状況について（各課・令和2年度事業報告・令和3年度事業予定）

(事務局からの説明略)

【座長】 質疑応答、意見交換に入りたい。

【山井委員】 意見というより、これからのお願いだが、資料4-1で、福祉総合相談窓口の設置で、体制が整ったという報告があった。今回の高齢者の計画や障害者の計画でも非常に議論になり、市民意見交換会でも非常に期待が高く、色々な意見が出た経緯がある。

恐らく次回の会議になるが、色々な相談で、特にどこに相談していいかわからない相談が多分沢山来ると思うので、どういう相談が来たか。その解決方法というか、場合によっては他の施設・機関や団体に紹介したとか、そういった相談の内容と解決策あるいは紹介先等について、次回の会議で資料をいただければ、今後の検討に役立つと思うので、お願いしたい。

【生活福祉課長】 実際、始めないとわからない部分も多いが、ご意見いただいたような実績はとっていききたい。

【山井委員】 色々な相談が来ると思うので、ぜひ次回によろしくお願いしたい。

【座長】 分類も難しいと思うが、分類した上で、緊急対応の必要性なども挙げて説明されるとよいと思う。

【副座長】 3点ほど質問したい。まず、3-1の資料の研修だが、人材というのはどこでも課題になっている。この中で、4ページの痰の吸引の研修については、コロナの影響等もあったと思うが、比較的医療的ケアが必要な障害のある方とか障害児のニーズが結構ある中で、受講者数が予想よりかなり少ないことが気になった。その理由とか背景とか、そのあたりを、わかっていることがあれば聞きたい。

資料3-2だが、6ページの相談事業で、成年後見だけでなく、権利擁護とかその他とか、幅広く相談を受けていると思う。例えばその他とはどんな相談があるのかとか、権利擁護といっても非常に広い。このあたり、相談件数が多いということが1つの地域課題の現れかと思うので、何か傾向のようなものを聞きたいのが2点目。

3点目は、資料7-1で、切れ目のない支援というところは、障害福祉計画でもたくさ

ん出てきて、障害のあるお子さんの支援では、教育との連携等といったニーズが非常に高く、パブリックコメントでも多く上がっていた。子育て世代包括支援センターと教育支援センター、児童発達支援センター、この3センターが中心となって進めていくことについて、どのような具体的な進め方を想定されているのか。今、検討していることがあれば聞きたいと思う。

【福祉公社】 最初の喀痰吸引の受講者が少ない件について。この研修は3号研修で、特定の対象者・利用者に対して喀痰や胃瘻等の研修を行うもの。よって、対象者がいないと研修が受けられない。要はタイミングが合わないと、他機関で受けてしまうということになる。今年度2回行ったが、タイミングが合わず、このような件数になった。今後はもう少し受講者が多くなる時期を検証し、開催できればと考えている。

【福祉公社】 相談事業の「その他」は、地域性もあると思うが、遺言の書き方に関する相談が多かった。ちなみに、5ページの上の市民講演会「知って安心！成年後見の基礎知識」では、成年後見の話と遺言の話講師の先生からしていただいた。参加者の方々の関心は、どちらも同じくらい高かった。武蔵野市の特殊性かもしれないが、そういったところが特徴としてあらわれているところだ。

【健康課】 子育て世代包括支援センターと教育支援センター、そして児童発達支援センターの連携ということで質問いただいた。

こちらについては、4月1日から、ステップノートというものを共同で使っていく。例えば発達に課題がある方が、健診やそのグループでお母様にそういった気づきがあり、その先の、例えば進学ですとか、または通所施設ですとか、そういったところで情報が共有できるようなツールということで、子ども支援連携会議という、教育、また子ども部門、福祉関係が集まった連携会議において作成した。4月1日から市報に掲載し、各部署で配布できるような形になっている。配布する場所として、5カ所の子育て世代包括支援センターと教育支援センター、児童発達支援センターで行っていく。

【北島委員】 2点ほど、お尋ねしたい。1点目は、資料8のデータヘルス計画で、糖尿病の重症化リスクが高い方に対して対応されたということだったが、その効果とか、やった上での課題にどんなものがあつたとか、わかれば教えていただきたい。

2点目は、先ほどの生活困窮者の方では多言語パンフレットを作成され、多言語対応がなされているようだが、子ども子育てのセンターを介した支援に関して、武蔵野市の場合には多言語対応とかいうのはどんな状況か。もしかしたら、そういうニーズがないのかもしれませんが、そこら辺も教えていただければと思う。

【保険年金課長】 資料8、データヘルス計画の糖尿病重症化予防について、今年度については、診療が途切れている方に対しての受診勧奨を中心に行ったところだ。お声がけをしてもなかなか診療につながる方が少ないことが課題と思っており、来年度も引き続き、どういう形で工夫していけば診療につながるかという視点で取組みをしていきたいと思う。

【保健医療担当部長】 子育て世代包括支援センターと子どもに関する多言語対応だが、健康課では、例えば母子手帳は当然日本語以外にも何種類か言語のものを用意している。

他に、基本的にはホームページは多言語対応で、個別にチラシ等をつくっているわけではないが、窓口等でもかなり様々な言語の方が来るので、ポケットトークのような変換する機械とか、そういったものも使いながら、個々に対応できる形をとっている。

【北島委員】 糖尿病の重症化予防で、国保の適正化ということが書いてあったが、重症化するとそれだけ医療費がかかるので、それが防げるとすごくいいと思う。うまくいっている例もあると思うので、改善されることを期待している。

【座長】 基本的には、要するに母国語を日本語としない方、外国人の方に対する支援が不可欠なものとして登場してきて、生活文化局は新しい財団をつくって、その支援をしているから、連携を強めていただきたい。もう1つ、自殺予防に関しても、厚労省の寄り添い型相談事業等との連携をどうとるかというのも1つの課題なので、それを進めていただきたい。ホットライン、この連携を進めていくことが必要だと思う。

【田原委員】 在宅医療・介護連携推進協議会については、今年度はコロナ禍でなかなかできなかったが、取組みとしてオンラインでやることを推進した。ICTの連携というのは、コロナ禍だからこそ徐々に、より広がるものだろうと期待をされていて、その1つとして、マップを作ったほか、情報共有のための様々なツール、メディカルケアステーションというツールがあるが、この登録者数も増えている状況だ。

しかし、一番問題になるのは、医療と介護の連携と言いつつも、その中の一定の温度差をどうするかというところが、やはり課題になるわけで、それについて、来年度は積極的にいろいろと動いていこうと考えている。

【小安委員】 共同募金事業について。戸別募金をやめて多分2年たったと思うが、それによって募金の金額がかなり減っている。ただ、令和2年度は、募金箱の設置などを増やしたとのことだが、赤い羽根共同募金に関しては、設置場所は増えたが、金額は減った。歳末たすけあい運動は増えてきているのかなと思う。ただ、もともと戸別募金を行っていた時は、歳末たすけあい運動は800万円ほどだったと思うので、増えてきたとはいえ、まだまだ半分以下ということが現状と感じている。

問題は、それを財源として活動していたボランティアの団体とかが今活動で困っていないのかなとか、減った分に関して何かしらの手当があるのかとかを聞きたい。

【座長】 戸別訪問をやめて、急激に落ちた。これをやめると、確実に落ちる。少し盛り返したが、今みたいな質問が出るのは当然で、何か対応していることはあるか。

【地域支援課長】 戸別募金を行っていた時は、赤い羽根、また歳末たすけあいにつきましても、約600万円を超える募金をいただいていたが、昨年度からこのように減っている。

ただし、戸別募金に代わり、地区協力会ということで、地域全体で募金をやっていこうということで、今年度は、NPO法人ミュー、社会福祉法人武蔵野、一般社団法人青年会

議所と、新たに協力いただくメンバーも加え、オール武蔵野で進めているところだ。

実際に配分する金額は、例えば地域社協とか、そういった地域の方の活動原資になっているが、その金額の範囲内で色々工夫していただき、その中で募金もこのようにやっていくとの意見をいただいている。何か市で助成とかになると、募金の趣旨も変わってくるので、そのような形で現在は進めている。

【座長】 地域福祉財源であることから、足りなくなっているところがあれば、市としても考えないといけない。

【森委員】 福祉総合相談窓口の周知について伺いたい。当事者の方からも期待が大きいというか、質問が多かった点だが、実際、来年度以降のこの窓口の周知の方法について、現状でわかっている部分があれば教えてほしい。特に人材育成センターでは、SNSも活用しているが、そういう方法も考えられているのかも伺いたい。

もう1つは意見になるが、生活困窮も、福祉総合相談窓口も、子育て世代包括支援センターも相談窓口が随分充実してきたので、その相談窓口を周知するような、パンフレットなのかウェブサイトなのかかわからないが、そういう相談窓口をまとめて周知することができるかというと思った。

【生活福祉課長】 福祉総合相談窓口の周知だが、チラシを作り、全戸配布する予算はとっているが、果たして全戸配布が有効な手段かは考えた方がいいと思っている。

生活困窮の自立相談でも、毎年チラシを全戸配布している。そうするとやはり相談は増えるが、それを別々にやるというのもあまり効率的ではない。予算の使い方も含め、周知の仕方については関係団体の方等にも話を伺いながら、少し練りたいと思っている。

また、SNSについては、生活困窮もだが、市のSNS等で情報は出しているが、なかなか市のSNS自体を見ていただけないところが課題だと思っている。民間では、今、生活保護制度などはムーブメントになっているが、市が発信したものはなかなかそういった形にならないのでどういう形なら届きやすいのかというところは支援団体等とも相談しながら、そういったところから広げていただくというのも1つの手と思っている。

今回、ホームページ等をつくるに当たり、今、委員の言われたように、相談窓口を一括して見られるようなつくりにも市ホームページもなっていないということも課題としており、そこは広報とも、どういう形に組み直していくか相談しているところだ。

【座長】 2点意見をしたい。1つは、東京都の生活資金貸付が1,100億になり、返還などの貧困問題が全面に出てきている。外国人の方も借りている。今後そこを重点的に議論いただきたい。社協だけの議論ではなく、武蔵野市でどうするか。

もう1つ、連携が多過ぎる。同じ人が同じように連携し、スクラップも少し考えていかないと、連携で終わることにもなりかねない。どこが結びついているのとかの整理が不可欠と思うので、次年度は取り組んでほしい。

では、事務局は、委員から出た意見、評価をそれぞれの事業に活かしてほしいと思う。

よろしくお願ひしたい。

#### 4 連絡事項

【地域支援課長】 本日は長時間にわたり、貴重な意見をありがとうございました。本日の会議の議事録は、作成後、確認いただき、ホームページにて公開する予定だ。

また、委員の皆様におかれましては、任期最後の会議となり、誠にありがとうございました。様々な分野から意見をいただき、今後の施策の推進に役立てていきたい。

次回の会議は、次期委員が決まりましたら、日程調整を行い、決定したい。

なお、先日、市の人事異動の内示があり、発令前だが、ご挨拶させていただく。

(挨拶省略)

【地域支援課長】 新年度は新たな体制で進めていく。引き続きご指導いただきたい。

#### 5 閉 会

【健康福祉部長】 本日は年度末の大変お忙しい中、今年度第2回目の健康福祉総合計画・地域共生社会推進会議に参加いただき、感謝申し上げます。委員の先生方の意見については、4月以降の施策に十分に反映させていただく。

また、今年度は高齢の計画、または障害の計画のそれぞれ策定作業を進めてきた。年度当初はコロナ禍の中、計画策定ができるのか非常に不安に思っていたが、この間、策定委員の先生方の活発な議論、検討により、2月に市長に答申をすることができた。ただいま、答申を市の計画に直しており、新たな計画が完成したら、また委員の皆様にも送付させていただくが、何かあれば、ぜひ事務局の方にも意見賜りたい。

来年度の1つの大きな目玉施策は、福祉総合相談窓口の設置だと思っている。予算額としては少額だが、武蔵野市における地域共生社会を推進していく、まさにインテークの部分を担当するのが、この福祉総合相談窓口である。4月1日に生活福祉課に開設・設置するが、走りながら考える部分も多々あると思っており、委員の先生方からその部分に関して、意見なり指摘なりを頂きたい。引き続きどうぞよろしくお願ひしたい。

また、本日が委員としての最後の会議ということで、この間、先生方には、武蔵野市の地域共生社会を推進すべく、様々な意見を賜ったと改めて感じている。従来は地域リハビリテーションの推進という言い方をしていたが、昨年4月から市の第六期長期計画の施策に合わせた形で、地域共生社会という形で文言を修正したが、基本的に地域リハビリテーションの理念と全く同じものだと認識をしている。そういった部分では、先生方からかなり大きな意見もいただいたと改めて感謝申し上げますところだ。

この4月から令和3年度がスタートする。先週の金曜日、来年度の予算が市議会で認めていただいた。我々としては、予算を着実に執行し、計画に書かれた事業、施策を着実に

進めていく、そういう役割、責任を背負っているので、先生方からはそういった部分での意見なり指摘なりを賜れば幸いだ。

新年度は、各所属の方に委員の推薦をお願いするが、引き続き武蔵野市の健康福祉行政にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いしたい。

**【座長】** 以上で本日の会議を終了する。